

## はじめに

わが国の急速な産業構造の改革，経済効率最優先の社会的傾向は，首都圏の一角に位置する神奈川県を凄まじいスピードで改変しつつあります。開発と技術革新の影響は，丹沢・箱根の山岳地帯，また相模川・酒匂川などの大きな河川，各地に残る丘陵の里山・斜面林・沼地・小川，三浦半島・真鶴半島などの沿海地など，県土のいたるところに及んでおります。そこに生活している生物たちは，激しい環境攪乱によってその生存をおびやかされ続けている現状にあります。

私たちは，平成4年に神奈川県レッドデータ生物調査団を組織し，植物・昆虫・脊椎動物の3部門において3ヶ年にわたっての調査を行いました。この調査は県当局の委託を受けて実施したものであります。

調査目的は，人為的な要素によって神奈川県からすでに絶滅したか，または絶滅の恐れがあると考えられる動植物の実態を把握することにあります。

この調査目的を達成するためには，神奈川県に従来分布していたすべての動植物の種類を明らかにし，それらの種類のそれぞれについて現在の分布状態がどうであるかを確かめなければなりません。神奈川県は他県に比べ面積が狭いことや交通が発達していることなど，調査しやすい条件を備えています。しかし，それでも県全域にわたってこの調査を徹底することは，いかにすぐれた研究者といえども個人的活動では不可能であります。今般，組織的調査によってかなりの成果を挙げ得たと考えます。従来分布していた動植物の種類は，過去の文献や標本を調べる必要がありますが，文献で証拠標本の伴わないものは，分類学的誤認の恐れのあるものも少なくありません。それらの疑点について，もっとも合理的と考えられる判断を下しつつこの報告書は作成されました。

本調査は各分野の調査員にとっても，研究者として興味深い課題であったと考えます。組織的調査の機会を与えて頂いたことを県当局に感謝いたします。調査員の皆さんはそれぞれご多忙であるにもかかわらず，本調査のために献身的努力を尽くして頂きました。調査団事務局には格別お骨折りを頂きました。各位に深謝申し上げます。

神奈川県レッドデータ生物調査団団長  
城川 四郎

# 目次

はじめに	1
序言	3
植物篇	
総論	13
ブロック別の概要	17
各論	34
文献	103
索引	107
脊椎動物篇	
総論	111
淡水魚	121
両生類	133
爬虫類	137
鳥類	140
哺乳類	157
索引	171
昆虫篇	
総論	173
チョウ類	176
トンボ類	187
直翅類	199
セミ類	206
水棲半翅類	208
甲虫類	212
索引	255

---